

シドニー発着のセレブリティ・エッジ乗船記(その2)

2025.11.15 池田良穂

今回乗船した「セレブリティ・エッジ」のクルーズは、シドニー発着の5泊6日のショートクルーズです。夕刻にシドニーを出港してオーストラリア大陸の東岸を南下してエデンという小さな町に寄港し、その後1日の航海日があり、その翌朝に大陸の南に浮かぶタスマニア島の南端の町ホバートに寄港します。そして夕刻には出港して中1日の航海日の後、シドニーに戻るという日程です。日本に例えると、東京または横浜をでて、北上して東北地方の港町に寄港してから北海道まで行って戻るといったイメージです。南半球なので南下するに従ってだんだん寒くなります。

セレブリティ・クルーズは、ロイヤル・カリビアン・グループ会社で、プレミアム・クラスを担っています。元々は、ギリシャのチャンドリス・ラインを起源としており、中古客船を使ったライナーサービスそしてクルーズへと展開しました。船のファンネルマークはチャンドリスの頭文字Cをギリシャ文字としたXでした。中古老朽船の運航を中心としていましたが、セレブリティ・クルーズを設立して、2隻のクルーズ客船を建造して、主に北米市場でプレミアム・クラスのクルーズに転身。しかし経営はうまくはいかず経営危機に陥り、ロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインに売却されました。そしてロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインはロイヤル・カリビアン・インターナショナルに名前を変えてカジュアル・クラス、セレブリティ・クルーズはプレミアムのマーケットを担うようになりました。

これまで筆者は、セレブリティの「セレブリティ・ミレニアム」の日本クルーズ、「セレブリティ・シルエット」のプレデビュークルーズで地中海を航海し、この「セレブリティ・エッジ」が同社のクルーズへの3回目の乗船でした。

同船の予約については、キャビンの選択はインターネットで行うことができ、支払いも日本総代理店であるミキツーリストのサイトでインターネットで簡単に行うことができました。

クルーズの申し込みも、船上での生活も、どんどん変化もしくは進化していますが、今回の乗船でも、これまでの筆者の長年のクルーズ体験とは違ったところが多くあり、戸惑うことも多くありました。そのひとつがメイン・ダイニングルームのテーブルです。ほとんどの船では夕食のテーブルが指定されて、食事の開始時間も決まっていますが、サービスしてくれるウェイトーとアシスタント・ウェイトーもクルーズ中で同じ人ですが、そうしたシステムはありませんでした。4つあるメイン・ダイニングルームは、それぞれ料理のテーマの違うレストランとなっていました。すなわち、地中海料理のキプロス・レストラン、フレンチのノルマンディ・レストラン、イタリアンのトスカナ・レストラン、そして多国籍料理のコスモポリタン・レストランで、どこを選んでもOKでした。メニューにはそれぞれの地域の料理が用意されていますが、すべてのレストランで共通の料理も提供されていて、それも選択できるようになっていました。また事前に時間の予約もできるのですが、乗船後にはこの予約機能はなくなっており、17時半から21までの間に各レストランに行けば、空いているテーブルに案内してくれるというシステムでした。同じようなシステムを、RCIの「クエンタム・オブ・ザ・シーズ」の中国発着クルーズで体験したことがありますが、その後のクエンタムクラスの姉妹船「スペクトラム」「オーバーシオン」「アンセム」

では、レストランは分かれています、メニューはどのレストランでも同じで、テーブルもクルーズ期間中は固定され、サービスしてくれる船員も同じでした。そして日によってイタリアン、フレンチ、アメリカン、地中海などのテーマが設定されていました。

今回のクルーズでは、5回中4回の夕食はメインダイニングの各レストランに変えて夕食を楽しみました。あとの1回はアクアクラス専用のブルーにしました。驚いたのは、どのレストランでもウェイターは名前を覚えていて、最初の挨拶の時には名前を読んでもくれること。レストランの受付から名前の情報が各テーブルのウェイターに知らされていて、それを覚えているようです。さすがにプレミアム船だけはあると感心したのと、テーブル担当のソムリエがいたのも最近のカジュアル船にはないことでした。

有料の特別レストランもたくさんありますが、その料金が高いのにちょっと驚かされました。どれも1人あたり5000から1万円程度のテーブルチャージが必要で、スペシャル・イベントと名付けられたものには2万円近いものもありました。円安だからこその感じなのかもしれませんが、カジュアル船とは違って、生活にかなりの余裕のある人々が乗っているでしょう。

夕食後のショーは、船首にある3層吹き抜けの劇場で円形の舞台で、そのスペースは大型カジュアル船に比べるとかなり小さく、ショーもダイナミックな舞台装置のプロダクションショーではありませんでした。しかし、それなりに見応えはありましたので、これは個人の好みによりそうです。

同船は2018年にフランスのアトランティック造船所で建造されており、13万総トンの巨大船ですが乗客数は2900名と少なく、全体に空間的な余裕がありました。また、季節にもよるのかもしれませんが、家族連れはほとんどいなくて、大人の船という雰囲気があるクルーズでした。

乗組員は1377名で、船長以下ギリシャ人士官が多いようですが、クルーズディレクターは英国人、シェフはインド人でした。サービス要員にはフィリピン、インドネシア人が多いようです。



エデンに寄港した「セレブリティ・エッジ」の姿です。ファンネルがXの形になっています。Xはセレブリティ・クルーズを創立したチャンドリス一族のギリシア文字での頭文字です。



ダイニングルームは4つあり、テーブルの指定はない。毎晩 17 時半から 21 時までオープンしていて、どのレストランを選んでもよいシステムになっていた。この4つ以外に上級キャビンのアクアクラスのレストラン「ブルー」、さらに上級のレトリート・クラスには「ルミナエ 12」があります。またカフェテリアレストランが 14 階に、有料レストランが 5 つあります。写真は地中海料理&ギリシャ料理をだすレストラン「キプロス」です。



シアターは、円形の舞台で、歌手のコンサートや、歌と踊りがありました。舞台が小さいため、大型のカジュアル客船のようなダイナミックなプロダクション・ショーはありませんでした。毎晩 19 時と 21 時の 2 回の公演でした。